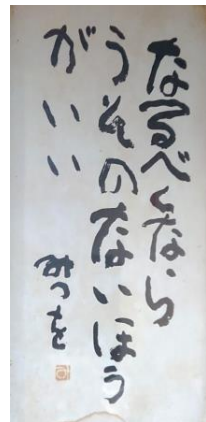


「家がいいね」 第227号

いせ在宅医療クリニック 広報月刊紙

2023. 4. 1



エイプリルフル、罪のない嘘をつこうと思いましたがダメ。上記と、思うは同じ。これ患者の壁紙です。

点滴にしぼられる、あなたと私。



あれあれ、咲いた花も夜寒に蕾を固くするよ



できることがまだ有るのなら、世の中何でも最良を求め続ける傾向が強いです。その実例が点滴です。救命救急の現場は、薬の迅速投与のため点滴確保は必須です。元気な人の急変時もとりにあえず点滴です。しかし自宅での点滴は、開始前に一考が必要だと思われまます。「少しでも元気に」「もっと長生きして」の周囲の思惑のため、受入れる人も居ます。ただ生を終える時、点滴と浮腫は本当に必要でしょうか。医療や看護も希望されれば、拒絶はできない実情です。在宅での気持ちの表明を縛り、本音の話から遠ざかるなら誠に残念なことです。

「ココロのへや」再開のご挨拶

カウンセリンググループを

拡充して再開します。担当は、榊原規之（さかきばらのりゆき）心理士さんです。県立こころの医療センター



を退職され、加わって頂きました。私とその病院に通勤していた頃からのお付き合いになります。「漢字の心でもなく、ひらがなのこころでもなく、お一人お一人の個別のココロを、ゆっくり丁寧に整えられる場所にしていきたいと思い、再命名をしました。どうぞ、今後よろしく願います」

いつか土に還るなら、精一杯生きて愛そう



進富座で観た映画

中国辺境の寒村での話。愚鈍と噂の男と障害で内気な女が口減らしの結婚で老いたロバと共に放り出されます。借財を返すために収穫を得るために誠実に働く日。全て土と共に生きる生活。卵でも産む鶏から育てる日々。題「小さき麦の花」

小麦を蒔くような人生です。（昭和の私は既視感）舞台は現代中国で、高級車に乗る世代から次々と街に移り住み、保証金を当てに古い家を壊します。私たち日本人が、失って来た道筋が重なります。

伊勢の在宅チームを、頑張り、続けます。

5月の連休期間は、暦どおりの休日体制です。休みの間も、在宅患者さんには対応いたします。



自宅での人生を 最期まで支援します

〒516-0805 三重県伊勢市御薊町高向 927
電話 0596-20-8104
ファクス 0596-20-8105

メール homecare@kr.tcp-ip.or.jp
<http://isezaitaku.com>



→バックナンバー閲覧可